

播磨まちかどニュース With いなみ野学園



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BAN テレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 110



心おどる新風、学園に吹く！！～新同好会活動の紹介～

配信日 令和7年11月1日◆

11月15日（土）・16日（日）の両日開催される学園一のイベント「いなみ野祭」。今年で何と「52回目」という長い伝統の行事です。

いよいよ近づいてきました。今回は、「いなみ野祭」に向けて練習を続けている新しい同好会のみなさんを紹介したいと思います。「音を楽しみ、文化に触れ、美しさを学ぶ」3つの同好会。初めは、「三線同好会」のみなさんです。



沖縄の音色に魅せられ集まった同好会で、「音を合わせるって楽しんやね」と、そんな声が聴こえてくるなごやかな雰囲気の「三線同好会」のみなさん。代表の部谷（へや）綾子さんにインタビューしました。

部谷（へや）さんの話では、「クラスの懇親会で三線を披露した時、友だち『ええ音色やね』と言ってくれ、初めは3名が、その後5名に、



更に隣のクラスの人も1名入り、同好会としてスタートしました。今年は新入生の8名が入部してくれました。中に沖永良部島出身の2名の方がおられます。」とのこと。

音を通じて心がつながる「三線同好会」。ゆつたりとして確かに歩んでいく音の旅に、みなさんも出かけませんか。



続いては、ウクレレの音色につつまれながら南国気分でハワイアンを楽しむ「ハワイアン同好会」です。ゆったりとした演奏とハワイアンソングで聴かせてくれます。今年4月にスタートしたほやほやの同好会。その代表の三宅治樹さんにインタビューしました。

三宅さんの話では、「みんな音楽が好きでいろ



いろとやってくれます。音楽的に詳しい人もいて仲間を助けてくれています。レパートリーも結構増え、『いなみ野祭』では5曲披露します。ボランティアもやっていきたいです」とのこと。

音楽でつながる心の南国、笑顔と癒しを届けてくれる「ハワイアン同好会」。あなたもアロハな時間を一緒に過ごしませんか。



次は、着物の着付けと所作を学ぶ「着物着付け教室」です。その教室の先生をしている北野

千賀子さんにインタビューしました。

北野さんの話では、「作ったきっかけは、自



分も何かで
きることは
ないか、役
に立つこと
があればと
思っていた
時、『着物の
着付け、教
えて』と言
われて始め
ました。今
年の4月か
らスタート
し、今17
名のみなさ
んと一緒にや
っています。」
とのことでした。

また、ここ
の代表である
北村直子さんにも
インタビューし、
北村さんからも、「
全部先生の
お人柄から
発した教室で、
仲間のみなさん
と楽しませて
もらっています」と
話されました。

日本の美と心を感じる時間、優雅で楽しい
学びの場として着物の世界に、みなさんも一
歩踏み出してみませんか。



(ナレーション 大前小夜子)

心ひとつに、太鼓が響く！～秋空に舞う祭りの熱気～

◆配信日 令和7年11月16日◆



初めは、加古川市神野町の「福留日岡神社」から紹介しましょう。10月11日（宵宮）、12日（昼宮）の両日、「福留日岡神社」での秋祭りが行われました。ここは獅子舞が奉納されます。獅子舞のその一、「唄獅子の舞」。悪魔が取り扱われた里に実りの秋が訪れ、神と万物が一緒になって喜びを表現する獅子舞です。

また、11日の宵宮では、「釜払い」と言って、諸々の神様の「釜払い」をして、地域の各家庭を訪問しながら獅子舞を奉納する行事が行われます。「縁起物」をして、当日は



各家庭では「窯払い」の獅子舞が来るのを待ちます。

獅子舞のその二、「洞の舞」。洞窟から出てきた獅子が荒れ狂う激しい舞いを披露します。「播磨は獅子どころ」と言われるほど獅子舞が盛んです。民族行事として獅子舞が奉納されてきました。



獅子舞のその三、「谷渡りの舞」。「獅子の子落とし」の故事にちなんで、勇猛果敢に這い上がる獅子の姿を表現した舞いです。

伊勢神宮の神職たち、つまり伊勢神宮のお参りの代理役をする人たち、「回壇」と呼ばれる人たちが各地域に赴き、そこに逗留し、舞いを伝えてきましたと言われます。その後は村独自で伝承発展して、少しずつ獅子舞の様子が違ってきたようです。村それぞれに受け継がれてきて、今に至っているのでしょうか。



獅子舞のその四、「花の舞」。獅子の好きな牡丹の花を利用して、悪魔祓いをする舞いです。

タイトルは同じでも、前芸のしぐさや持ち物、また花の種類など、各地域で少しずつ変わっているそうです。保存会のみなさんは、これらの伝統を受け継ぎながら、地域に根付くようにと施設訪問をしています。訪れる人大勢のみなさんから大喝采を受けていました。

今回は、神野町の「福留日岡神社」の獅子舞奉納の様子を中心にお伝えしました。

「秋祭り」は、他にも各地域で行われています。その様子も最後にお伝えしたいと思います。その一つは、高砂市の「曾根天満宮」の秋祭り。



曾根天満宮（高砂市）

立派な神輿が大勢の若い衆に担ぎ上げられる様子や、「竹割」神事も行われていました。

その二つは、同じく高砂市の「生石神社」の秋祭り。加古川市東神吉町西井ノ口も「氏子」です。「宵宮」では子ども



「だんじり」が地域を巡行します。

その三つは、加古川市尾上町の「大年神社」。

その四つ目は、姫路市船津の「正八幡神社」の秋祭り。

最後は、「福崎神社」の秋祭り。以上5つを紹介しました。

太鼓や笛の音が聞えて来るだけで「祭りだ！」と、気持ちも心もウキウキしてきますね。また、「よいやさー、よいやさー」との

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html



大年神社（尾上町池田）



正八幡神社（姫路市船津）

掛け声を耳にするだけでも、一緒に担いでいるような高揚感がありますね。

祭りは人をひきつけ、み

んなを一つにしてくれるパワーがあると感じます。だからこそ、昔から今に至るまで、つながってきているのでしょうか。祭りが伝統行事としてあると強く思いますね。この伝統文化を次世代にも引き継ぐこと、それが更なる伝統となっていくでしょう。秋祭り、最高！！



福崎神社

最後にひとつ、「太鼓・笛の音（ね）、よいやさーの掛け声 祭りで心はみな一つ」



（ナレーション 古川千代子）



《編集・発行》

いなみ野学園 ビデオ制作委員会（いなみ野学園大学院講座・研究生） 079-424-3342